

常与寺縁起

以下は流山市史研究3号『近世流山村の成立について』松下邦夫氏の研究論文からの抜粋

『下総国葛飾郡風早荘流山邑梅本山常与寺記』 元禄2年（1689年） 常与寺住職 日悟

「高祖三世の孫日念の開基で、始め流山邑の馬場の地に荊を刈り、茅を縛て一字を創したのに始まる。その後、この草庵は継ぐ者がなく朽ち落ちてしまい、二百余年を経た天文24年（1555年）に日信が梅本坊を再建し、釈迦四天王大聖の像を安じた。そして真間山弘法寺末に列した・・・」

注) 本土寺過去帳に「梅本坊 文安4（1447年）ヒレガサキ」の記述あり

注) 真間山弘法寺（まますんぐほうじ）市川市真間4-9-1

「梅本坊はその後、45年を経た慶長5年（1600年）に陸州の動乱を罹れて篠籠田に移り、さらには根戸に移った。」

注) 柏市篠籠田の法華蘭塔、我孫子市根戸の法華坊

「日信には八木郷生まれの日遊という弟子があり、彼は一尊四の本尊を西平井の本覚寺に預けて久しく修行を重ね、その後に流山邑の長である須藤常蓮の合力を得て、寛永13年（1636年）堂を現在地に建立し、翌年、梅本山常与寺の山号と寺号を本山から受領、開山した。」

注) 一尊四士：釈迦如来と四菩薩像

「常与寺の寺号は、再興に大きな功績のあった須藤常蓮とその妻妙与の法名の各一字をとって付けられたものである。」

注) 法名は常蓮院日應と妙與日了

嘉暦元年（1326年）日念が開山 流山邑馬場＝ヒレガサキ ？

天文24年（1555年）日信が梅本坊の草庵を再建

慶長5年（1600年）草庵を篠籠田に移す

？ 年（？ 年）草庵を根戸に移す

寛永14年（1637年）日遊が須藤氏の助力を得て常与寺を開山



常与寺墓地にある須藤家墓石

→ 妙法 常蓮院日應 霊位

→ 妙法 妙與日了 霊位